土
強
五十八編上
廣国
へ13
1178
115
物
か
た
り
五十八編下
へ13
1178
116

五十八編上
へ13
1178
115

特 へ13 1178/115

戊辰葵

白縫譚

五十八篇

上集

種彦作

芳幾画

菊壽文庫

一交斎幾丸芳

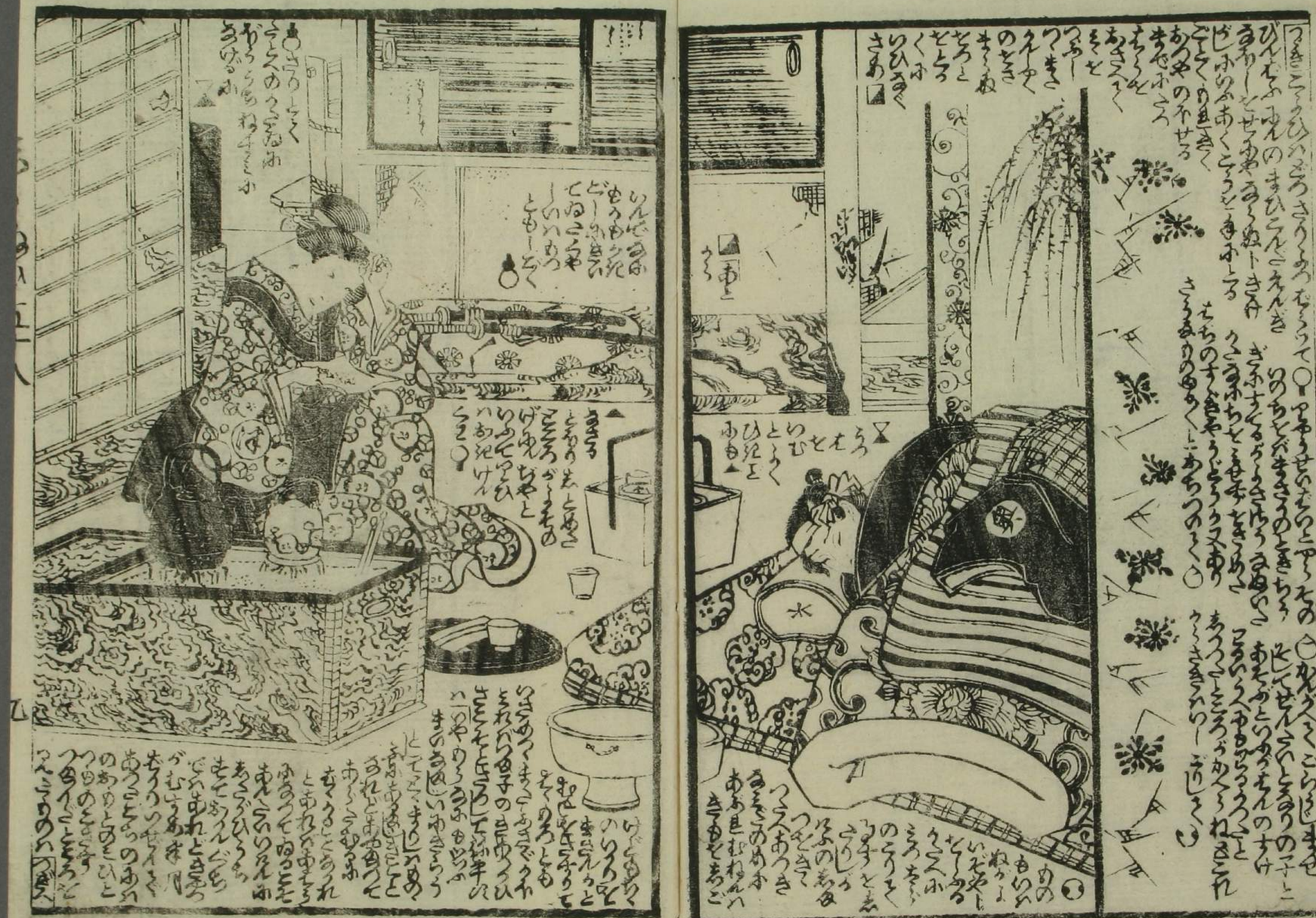
極樂至て娛さる女ぞ无て始らず。仙を楽びて長壽もるとも霞が酒でい
酔れ世じ。細川政元い左道を修もとて男色ゐて欲を忍ゝ由若菜姫の
奇術ゝてら男ゐ情ハ破まても見ん。然ゐくも自己ゐ對偶しき夫なの色を
寡婦ゐてらもて宜ゐれど人友氏の。血脉皆ゐ断ゐれハ大功立て孝不成と
作者の腹ゐて佳婚を。択むゐつけて彼術をもゐ世ゐ佛の後光撤ゝ
様で信ゐ減ん。桃を持ぬ西王母ハ。姐妃ゐ揚貴妃ゐ吉祥天ゐ分る
ゐと今ゐ思案ゐ最中故。寸の間姫を休せて此一套ハ相中ゐ役者ゐ役を
付らるゐ上用芝居ゐ一ゐ一ゐ此草稿ゐ筆を採
舞頃共ハ小鴨ゐ一ゐ一ゐ相鴨の間ゐ狂言ゐ一ゐ一ゐ寒中ゐ
更と更と世界に愕きたまふな。

慶應三新刊

柳亭種彦記

稚菜姫

九聯兒



種彦作
芳幾畫

[illegible]
兩面織花田物語 初編 五編迄 [illegible] 作 [illegible]
假名讀八犬傳 [illegible] 飯島[illegible]文錄 [illegible] 朝書 [illegible] 芳幾 畫
吉今俳優似顔大王 故豊國 [illegible] 天錦 [illegible] 二番續
太平記英勇傳 中 錦山々人 [illegible] 百番續 惠齋芳幾畫

物まね

稜彦作
芳幾画

五十八編下

へ13
1178
116

特
へ13
1178
116
おくぬむ　後ひと　よし　実
五十八海　きくの　あくつく
下集
茂丸著

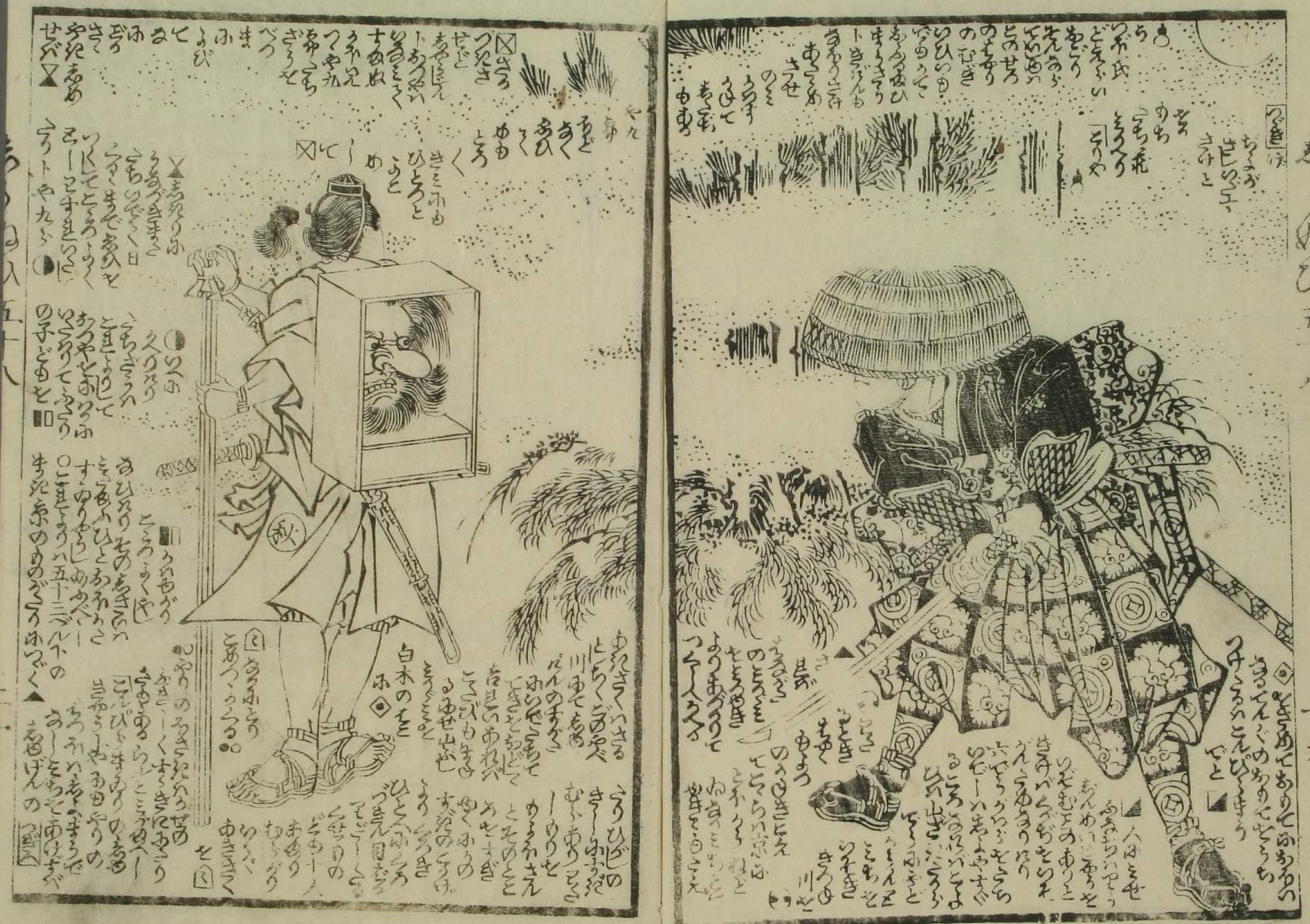
三

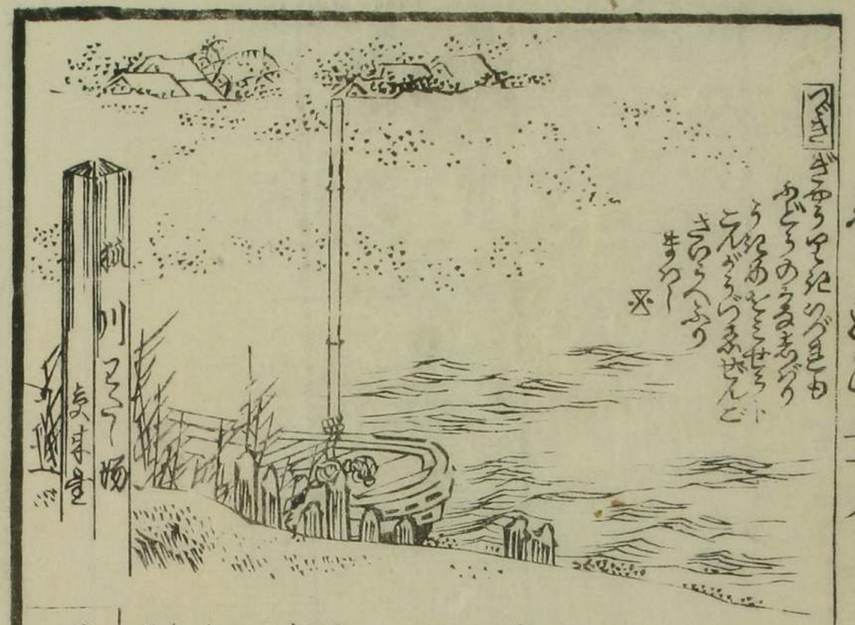
錢

十三

春

四の巻





※やりさきもらくど
いよいよくあげくつ紀
こんまびあふんんどう
トこーいのぐこも
くるるゆぬきくゑさ紀
のそふずきろ　おとーー
こんんとうまびるを
ちふせあーーをうちふせ
もてふくてるこふ
あげあそ且このごろく
とげのえりをうふ
ゆくもすきこーこも
ゆつふふびりこも
こきろくありあけの
かげめろろこう
をまるひとろめこすけ
ゼトあ紀さくこもを
さそあどきあふる
めとんんとうふゆ
いぐまきのとろげに
こまどこぬこるこのとき
こぐふのぐこちこう
ひとろのめのくふ※

※めりすにふひょう
こもいのぐせのびーを
あくこもくねくをト
めとこすりふと
あきまくぐこにこ
みこるゆをびふゆ
あうこるをこの
めんめきんむく
ぐやくをこをうこの
とをこぐべん
「こころのをさス
きろす川あの見もゆ
くこへんけのめの
あゆここのをとゆふ
こをこルトこーのここを
ぬくふりこちくきう
つるゆいたこりこのこも
まこいちぐこまをこをんで
こう、めきこをを見ぬ
そもこのふーいこを
きろぐを五十九へんの
もぐめをこくく
ありこをへ

狂言作芸尖曲

浪速黄金鶴

三編讀切

門前　其水

月々草紙四編

江戸深川佐賀町

廣岡孟章助梓